

平成25年度「市長と語りあう会」について

1 出席者状況

開催日（曜日）	会場	時間	出席人数		
			男	女	計
7月25日（木）	東仙道地区振興センター	19:00～20:40	21	2	23

○市側出席者

市長、副市長、総務部長、経営企画部長、秘書広報室長

2 会の概要

○開会（秘書広報室長）

- ・ 会の趣旨説明
- ・ 出席者紹介

○あいさつと市政運営の説明（山本市長）

(1) 平成25年度施政方針は平成25年度だけでなく自分の任期中いっばいのことを意識して示している。

(2) 平成25年度施政方針から基本指針について

① 人口拡大への挑戦

- ・ 日本全体の人口も2005年をピークに漸減傾向であること。
- ・ 人口はそのまちの政策に対する満足度を示すバロメータであること。
- ・ 足による投票という言葉もあり、その町の評価によって転出入があること。
- ・ 人口は産業の尺度、消費の尺度であること。
- ・ それぞれの施策が人口の増減にどう繋がるか分析しながら取組んでいくこと。
- ・ 人口の増減には社会増減と自然増減があり、社会増減の内転入促進対策はU I ターン奨励と企業誘致、転出低減対策は仕事の場づくりが必要であること。

また、自然増減の内出生を促す対策は、結婚奨励、子どもを産み育てる環境づくりに取り組むと共に、自然減を食い止める対策は平均寿命を延ばすために、医療・診療体制の充実と健康づくりや予防が必要であること。

- ・ さらに、社会増、自然増対策に加えて、交流人口の拡大に取り組むこと。他地域から益田市にやってくる人々を定住のきっかけにしたいこと。そのためには、益田市との交流の人数、回数、滞在日数の拡大を目指すこと。

② 財源の効率的配分

- ・ 財政状況は今以上に厳しくなることが予想されること。
- ・ 歳入の面では、現在市町村合併の恩恵を受けて、合併前の3市町の状態を想定した地方交付税が交付されているが、平成32年からは合併算定替えがなくなり、今より12億円が減額される見込みであること。
- ・ 歳出の面では、市債の返済について3、4年後がピークになること。

③ ネットワークの構築と活用による産業の活性化

- ・ 市内部においては、同一目的を持つ様々な組織と連携して取組むことで、それぞれの事業の相乗効果が上がるよう努めること。例えば、商工会議所等各種団体との連携。

市外部との連携については、津和野、吉賀だけでなく、道路整備では浜田、萩と連携して取組むこと。また、国や県の施策に乗って市も取組むこと。

(3) 現在取組んでいる課題、今後取組む課題

① 学校給食センター整備事業について

- ・ 新しい学校給食センター整備にあたって、7月24日臨時市議会で設計費の補正予算が承認されたこと。
- ・ 今は、3箇所まで給食の調理をしているが、その施設は国の衛生管理基準を満たしておらず、また働く環境としても悪いこと。
- ・ 新調理場については、昨年度は1箇所案が示されたが、自分としては地産地消、食育、雇用、産業振興のため複数設置をしたいと考え方針を転換したこと。また、複数設置も当

初は3箇所案を考えていたが、高津(新設)と美都(改修)の2箇所にしたいこと。

- ・ 美都の調理数は200食だが、調理場をなくすことによる打撃を考えると存続が望ましいと考えること。また、美都調理場を通した美都の産業振興については市全体で考える体制を作ったこと。
- ② 高津川ラインガルテン等整備事業について
 - ・ 目的は交流人口の拡大と有機農業の振興であること。
 - ・ 当初候補地(国営農地開発白上町内)での開設は、周辺の水質調査結果が飲料用に不適切であったことと採算性の面から、慎重かつ柔軟に検討し最終判断をすること。
- ③ 地域医療体制の充実について
 - ・ 美都診療所については、医師会の支援を受けながら継続していくこと。
 - ・ 市民の関心が高い産婦人科医については、一時期分娩制限をせざるを得ない状況であったが、日赤と島根大学の支援を受け制限がなくなったこと。
 - ・ 脳神経外科については、通常脳神経外科設置のためには、最低3人の医師チームが必要であること。
 - ・ 脳神経外科医の医療技術を維持するための症例数確保には、30万人の人口規模が必要であること。
 - ・ 全国的に脳神経外科医が不足していることから、当面は、緊急事態の際に、脳神経外科等設置されている出雲や浜田の病院までの迅速な搬送ができる対策に努めること。
- ④ 防災対策と危機管理体制について
 - ・ 標高表示について、国や県道については既に設置されているが、市道沿いにも標高表示をすること。今年度予算は100万円を措置し100箇所に表示する予定であること。
 - ・ 津波ハザードマップの作成したこと。
 - ・ 他自治体と防災、災害応援協定を締結すること。(高槻市、豊中市外)。
- ⑤ 空港の利用促進と道路整備について
 - ・ 東京便は2便化、大阪便は定期便化を目指しているが、ポイントは採算性であること。
 - ・ 航空会社は自由競争の中で赤字路線を減らしたいというのが本音であり、それを克服するためには、利用促進が大切であること。
 - ・ 飛行機の利用促進のためには、首都圏、関西圏との交流を進めていくこと。
 - ・ 高速道路について、三隅・益田道路は平成23年度に事業化が決定されたこと。一般的には開通までに今後10年かかるが、それを短縮したいこと。
 - ・ 益田・萩間は優先区間の絞り込みが始まり、ようやく動き出したこと。
 - ・ 益田・萩間の高速道路は、国道191号のバイパス機能だけでなく、国道9号津和野までのう回路としての機能も期待できること。
- ⑥ 都市間交流の推進について
 - ・ 高槻市とは、今年度はサッカー交流、ユズ、ワサビのPR、姉妹都市交流サミット、災害協定等に取り組んでいること。
 - ・ 豊中市とは、空港が結ぶ都市交流や防災協定に取り組んでいること。
- ⑦ 企業誘致の推進について
 - ・ 企業誘致は産業振興の即効薬と捉えていること。
 - ・ 益田市の有利性をアピールして企業誘致に取り組んでいること。
 - ・ 益田市に関心を持っている企業があるので、市民のみなさんに早く朗報が伝えられるように努めたいこと。

(4) 意見交換

質問項目は以下のとおり。詳細は、別紙のとおり。

- ① 高津川ラインガルテンについて
- ② 萩・石見空港の利用促進について
- ③ 小規模化、高齢化する集落対策について
- ④ ドクターヘリの活用について
- ⑤ 市職員の対応について
- ⑥ 学校再編について(小学校)
- ⑦ 学校再編について(中学校)
- ⑧ 美都中学校校舎について
- ⑨ 益田市の児童生徒の学力向上について
- ⑩ 高校卒業後の進路について

- ⑪ 光ファイバー網の活用促進について
- ⑫ ドクターヘリのヘリポートについて
- ⑬ ドクターヘリの発着可能場所について

○ 閉 会 （秘書広報室長）



平成25年度「市長と語りあう会」

〔会場 東仙道地区振興センター〕 開催日時：平成25年7月25日(木)19:00～20:40

要 望 事 項 等	回 答
<p>① 高津川ラインガルテンについて クラインガルテン設置の考え方には異論はない。現在の状況(採算性、水質等)を色々勘案すると見直すのもひとつの方法ではないと思うがいかがか。</p>	<p>① 行政には継続と安定が求められるが、高津川ラインガルテンについては、採算性がもともと厳しかったうえに、水質(ひ素)問題が出て来て、ますます厳しい状況である。 しかし、これまで支援いただいた国との協議をしなければいけない。 また、事業決定までの説明が不十分であったという反省も踏まえ、手続きを踏んで市民や議会に説明していく。</p>
<p>② 萩・石見空港の利用促進について 現在空港を活用した様々な交流に取り組んでいるが、美都町時代には、飛行機利用の修学旅行にも補助金を出したことがあった。 今後、益田市で修学旅行者を受け入れられるようなプログラムを作成し、萩や益田の歴史に触れられるようにしたらいかがか。</p>	<p>② ご提案ありがとうございます。 萩、益田共に子供たちが学ぶ様々な資源がある。提案があったプログラムを検討する。</p>
<p>③ 小規模化、高齢化する集落対策について 市内には限界集落もあると聞くが、自分の集落も10年後に何人の人が残っているか不安である。こうした集落の対策をどう考えているか。</p>	<p>③ 絶対的な策はないと思うが、種々の方法が考えられる。 例えば産業の振興や地域の魅力をアピールし地域外からの人を招くこと等が挙げられる。また、交通対策、買い物弱者対策も解決しなければいけない。様々な手を打って進めていかなければいけない。</p>
<p>④ ドクターヘリの活用について 脳障害が出た時の措置は20分以内が大切だと言われている。ドクターヘリが十分活用できる体制をとって欲しい。</p>	<p>④ ドクターヘリの運用は、病院から患者がいる現場に向かうための手段の場合と、病院から病院間を搬送する場合の2通りがある。 このたび新しく建設される益田赤十字病院新病院においては、当初ヘリポートの設置を予定していなかったが、方針を変更し設置することとなった。その背景には、中国5県において県を越えたドクターヘリの運用が検討されていることと、吉賀や浜田等近隣の病院でもヘリポートを設置することが挙げられる。</p>

要 望 事 項 等	回 答
<p>⑤ 市職員の対応について 市長が代わり、市職員の雰囲気がピリピリした感じから少し変わったと感じている。 しかし先日市税務課に行った時、職員の説明不足で2度手間になった事例があった。 職員は、来客者に対して、様々な場を想定し丁寧に分かり易く(方法や制度を)説明して欲しい市民が市役所に行って良かったと思えるようになれば益田市はさらに良くなると思う。</p>	<p>⑤ 職員に対しては、「どうやったら市民の方に役立てるか」を考えて行動するよう再三伝えているが、全員には徹底されていない。 職員自身も、職場や業務の改善のために努力することが大切であるし、そうしなければならぬと職員自身が意識するように私自身も努めたい。 職員の能力には個人差があるので、職員の至らない点については、率直に市に伝えて欲しい。 職員の能力が向上するよう努める。</p>
<p>⑥ 学校再編について(小学校) 小学校は複式になったとしても、地域に残して欲しいが、保護者の意見も聞かなければいけないと思っている。</p>	<p>⑥ 学校統廃合の目的は、財政の面もあるが、先ずはよりよい教育内容、教育環境を整えることにある。 二川小学校廃校の後に、都茂小学校に通い始めた旧二川小学校生の保護者の意見を伺うと、子どもの数が増えたことに対して集団生活が体験できることに好評価の意見が多かった。 ただ、地域にとって小学校は大きな存在であり、廃校後の地域の振興策も市としては大きな課題であると認識している。</p>
<p>⑦ 学校再編について(中学校) 中学校も、生徒数が減り、希望の部活がないので益田の中学校に行くという子供も出て来ている。 今、美都中学校の男子は野球部と卓球部しかないが、これを〇〇中学校はサッカーに重点を置き、△△中学校は野球に重点を置くというように重点競技を決めて、市全体でそれぞれの部活動の振興を図ることが考えられないか。</p>	<p>⑦ 各中学校に重点スポーツを設けて部活動を活性化するという案は今後の参考にさせていただきたい。</p>
<p>⑧ 美都中学校校舎について 美都中学校校舎の床で状態が悪い所がある。後年度修繕するということであったがいかか。</p>	<p>⑧ 校舎の修繕は市が行うべきことであり、遅れることのないように努める。</p>

要 望 事 項 等	回 答
<p>⑨ 益田市の児童生徒の学力向上について 市内の児童生徒の学力が低いということで、市議会も福井県に視察にいたり、市も学力向上のために5,000万円近い予算を措置した時代もあったが今年度はいかがか。</p>	<p>⑨ 平成25年度予算では、学力向上連携推進事業費として675万円措置しているが、それ以外にもALTの配置など学力向上対策に取り組んでいるがその他の関連する予算となると様々な事業があることから、ここでは明確に答えられない。</p>
<p>⑩ 高校卒業後の進路について 18歳以上の若者が少ないのは職が少ないためだが、若者が出て行った先等の追跡調査をしているのか。</p>	<p>⑩ 高校に照会すれば詳細がわかると思う。益田市には、高校卒業後進学できる大学もないこともあるが、いったんは益田市から出てその後帰って来られる場づくりに努めたい。</p>
<p>⑪ 光ファイバー網の活用促進について 益田市内には全域に光ファイバー網が整備されているがこうした基盤を活用し地元企業の情報発信をするとともに、地元企業が新卒者を雇用するよう努めて欲しい。</p>	<p>⑪ 光ファイバー網の活用は大きな意味があると思う。 民間の方も一緒になって、取り組んで頂きたい。今後に向けての大きな課題であると認識している。</p>
<p>⑫ ドクターヘリのヘリポートについて ドクターヘリを益田日赤に常駐するようにして欲しい。</p>	<p>⑫ 例えばドクターヘリが必要と想定される場合の中で、脳神経外科医については、(既述のとおり)医療技術を維持するための症例数確保に30万人の人口規模が必要であると言われてい る。 医師不足については、国も対策を考えているようであるが、日本全体で医師をどう配置するかを考えなければならない。現時点では、脳神経外科医を確保するというよりも、脳神経外科医が配置されている浜田市の浜田医療センターあるいは出雲市の県立中央病院への移動時間の短縮に力を入れたい。</p>
<p>⑬ ドクターヘリの発着可能場所について ドクターヘリが発着可能である場所を明らかにして欲しい。</p>	<p>⑬ ドクターヘリが発着可能な医療施設については、益田赤十字病院新病院をはじめ近隣の自治体でも検討されている。消防の判断で、ヘリコプターが良いか救急車が良いか判断されるようである。</p>